

園芸豆図鑑Vol.17 ヘレボルス 冬の貴婦人 クリスマスローズ

ヘレボルスが見られる場所

- 紫竹ガーデン(北海道帯広市)
- 国土交通省 みちのく杜の湖畔公園(宮城県柴田郡川崎町)
- 環境省 新宿御苑(東京都新宿区)
- 都立神代植物公園(東京都調布市)
- 市立相模原麻溝公園(神奈川県相模原市)



市立相模原麻溝公園のヘレボルス(ニゲル・ヒブリッド合わせて約6,000株)

参考文献

- 花図鑑シリーズ8「球根 宿根草」村井千里・久山敦監修(草土出版)
- 愛蔵版「クリスマスローズ 最新花コレクション」野田卯一郎著(毎日コミュニケーションズ)
- よくわかる栽培12か月「クリスマスローズ」石原記念男著(日本放送出版協会)
- 「幻の植物を追って」萩原樹徳著(講談社)
- 「クリスマスローズ」野田卯一郎監修(六耀社)
- 「魅惑のクリスマスローズ」野口一也著(花郷園)
- 「RHS WISLEY HANDBOOKS Hellebores」Graham Rice (Cassell)
- 「The Gardener's Guide to Growing HELLEBORES」Graham Rice & Elizabeth Strangman (TIMBER PRESS)
- 「Hellebores」Marlene Sophie Ahlburg (Batsford Ltd.)
- 「The Hellebore Queen Helen Ballard」Gisela Schmiemann & Josh Westrich (Art and Nature)
- 「Hellebores」Brian Mathew (Alpine Garden Society)

監修・執筆

野々口 稔(園芸研究家・HELLEBORUS倶楽部代表)  
 1956年、東京都生まれ。2000年6月にホームページ「冬の貴婦人 クリスマスローズ」を立ち上げ、  
 2001年8月に愛好家の集い「HELLEBORUS倶楽部」を設立した。  
 監修・執筆に主婦の友ベストBOOKS「人気のクリスマスローズ」(主婦の友社)がある。  
 URL <http://helleborus-chris.com/>

協力

横山園芸

発行

財団法人 相模原市みどりの協会  
 〒228-0828神奈川県相模原市麻溝台2317-1 TEL042-777-2860  
 URL <http://www.sagamihara-green.or.jp/>  
 E-mail [info@sagamihara-green.or.jp](mailto:info@sagamihara-green.or.jp)

彩りの少なく落ち着いた冬枯れの庭では、木立の下につもる落ち葉の間から、クリスマスローズの可憐な蕾が頭を持ち上げはじめています。うっむきかげんに楚々として咲くこの花は、冬の貴婦人として多くの園芸愛好家の心をとりこにしています。

「クリスマスローズ(Christmas Rose)」はキンポウゲ科ヘレボルス属の原種のニゲルの英名です。英国ではクリスマス時期に咲くヘレボルス・ニゲル(Helleborus niger)を「クリスマスローズ」と呼んでいました。日本ではまだヘレボルス属(全体を「クリスマスローズ」と呼びますが、現在世界的には学名である「ヘレボルス(Helleborus)」を「呼び名が主流」としています。

豊かな花色・花形、清楚で凛として立つ風情。今年の冬、あなたのお庭にはどんな貴婦人達が訪れるのでしょうか。

冬の貴婦人  
**クリスマスローズ**  
 HELLEBORUS









原種有茎種  
Caulescent species

フェチダス、アウグチフォリウス、リビダス及びニゲルがあります。フェチダス、アウグチフォリウスは特に背丈が高くなり、庭の奥手側やボーダーの素材として最適です。花は緑色で地味ですが、鈴なりにたくさんの花を咲かせるため存在感があります。リビダスやニゲルは背丈が低いので、庭の手前側や花壇に向いています。リビダスはやや耐寒性に劣りますが、十分庭植えも可能です。ニゲルは純白なものだけではなく、ピンクや赤色を帯びたものもあります。



フェチダス *H.foetidus* foetidusは「悪臭のある」という意味。花は筒状で緑色。葉は約12枚の小葉に分岐。

原種無茎種  
Acaulescent species

トルカータス、クロアチカス、アトロルベンス、オリエンタリス、オドルスなど、12種があります。同じ品種、あるいは自生地の同じコロニー内であっても、花色や花形の変異が大きく不思議な魅力があります。落葉性の種類とされているものでも、日本の気候風土では落葉しない場合もあります。また、ヴェシカリウスやチベタヌスは独特の筒状の花を咲かせます。



ヴェシカリウス *H.vesicarius* 花は筒状で緑色。パープルかブラウンの帯が付く。葉は緑色で水分が多い。



フェチダス・ウェスターフリスク *H.foetidus* 'Wester Flisk'  
ステム(茎)が赤色を呈するのが特徴。



アウグチフォリウス *H.argutifolius*  
花は明るい緑色。葉は縁が鋸歯状で3枚の小葉に分岐。



ムルティフィダス・ヘルツェゴヴィナス *H.multifidus hercegovinus* WM9011  
multifidusは、「多裂の」という意味。花は緑色で小輪。葉は小さく分岐が多い。



ムルティフィダス・イストリアカス  
*H.multifidus istriacus* WM9321  
花は緑色で大輪。葉は大きく分岐が少ない。



リビダス *H.lividus*  
花は緑~桃紫色。葉は暗緑色で銀色のベイン脈を伴う3枚の小葉に分岐。



ニゲル *H.niger*  
花は白色。葉は硬く7~9枚の小葉に分岐。



トルカータス *H.torquatus* WM9013  
花は内側が緑色で裏側がパープル。パープルのベインが入る。葉は緑色で小さく、鋸歯状を呈する。



ニゲル・ダブル *H.niger double*  
'ダブルファンタジー'と呼ばれるメリクロン(成長点培養でできたクローン)株。



ニゲル *H.niger*  
剣弁花のタイプ。



トルカータス *H.torquatus* "mult.ssp.serbicus"  
花は緑色で丸弁。



ムルティフィダス・ボッコネイ  
*H.multifidus bocconei*  
花は黄色みを帯びた緑色で大輪。葉は小さく分岐が多い。香りを持つ。



原種無茎種  
Acaulescent species



デュメトラム *H. dumetorum* WM9405  
dumetoumlは「藪の」の意味。花は緑色で小さい。葉は緑色で約9枚の小葉に分岐。



アトルレブンス *H. atrorubens* WM9317  
atrorubensは「暗赤色の」という意味。花はパープルで小さい。葉は緑色で10~15枚の小葉に分岐。



デュメトラム(ダブル) *H. dumetorum* WM9405



非常に貴重な原種のダブル。  
内側が淡緑色で裏側が濃い紫色。



クroatichカス *H. croaticus* WM9313



花はダークパープル。葉は緑色で多くの小葉に分岐。



クroatichカス *H. croaticus*



花は内側が赤みを帯びた緑色、裏側がパープル。



アトルレブンス *H. atrorubens* WM9028



花は内側がパープルを帯びた緑色で、裏側がパープル。

原種無茎種  
Acaulescent species



オリエンタリス・コーカシクス *H. orientalis caucasicus*  
花は緑色を帯びた白色。葉は暗緑色で7~11枚の小葉に分岐。



オドルス *H. odorus*  
odorusは「においのある」という意味。花は緑色。



オリエンタリス・アブシャシクス *H. orientalis abchasicus*



花は赤みを帯びたピンク色。



オリエンタリス・グッタタス *H. orientalis guttatus*



guttatusは「滴状の」という意味。  
花は白色でスポットが入る。



オドルス *H. odorus*



葉は緑色で約10枚の小葉に分岐。



キクロフィルス *H. cyclophyllus*



花は明るい緑色。葉は緑色で約25枚の小葉に分岐。芳香を有するものもある。



原種無茎種  
Acaulescent species



ブルプラスケンス *H.purpurascens*



purpurascensは「帯紫色の」という意味。花は柔らかいパープルにグレー、グリーンが入る中間色。葉は緑色で約15枚の小葉に分岐。



ヴァイリデイス *H.viridis*



green hellebore とも言われ、viridisは「緑色の」という意味。花は暗緑色で小さい。葉は緑色で約20枚の小葉に分岐。



ヴァイリデイス *H.viridis*  
花が大きいタイプ。



チベタヌス *H.thibetanus*



花は筒状でピンク色。葉は淡緑色で7枚の小葉に分岐。

有茎種の交配種  
Caulescent hybrids

ニゲルコルス、ステルニー、エリックスミー、バラードアエ、スノーホワイトがあります。異なった種類の原種有茎種を交雑させ、中間的な性質の交配種が生まれます。花色や草丈は、両親の形質を受け継ぎ様々な変異を示します。特に、ステルニーは姿の変異が大きく、コンパクトで鉢向きなもの、垂れさがるもの、茎が立ち上がるものなど魅力がいっぱいです。また、原種の弱さを補ってどの品種も丈夫な形質となっていますが、ステルニーを除いて不実です。



ニゲルコルス *H.xnigercors* (*H.niger*×*H.augatifolius*)  
花は白〜クリーム色。葉は緑色でつやの無い13〜5枚の小葉に分岐。



ステルニー *H.xsternii* (*H.argutifolius*×*H.lividus*)  
花は緑色。葉は3枚の小葉に分岐。



エリックスミー *H.xericsmithii* (*H.sternii*×*H.niger*)  
花はパールピンク〜白色。葉は暗緑色で葉脈を伴う。5〜7枚の小葉に分岐。



ステルニー *H.xsternii* (*H.argutifolius*×*H.lividus*)  
花は小豆色。



バラードアエ *H.xballardiae*  
花は内側がクリームグリーン、外側が桃緑色。葉は緑色で銀色の光沢と葉脈を伴う。



ステルニー *H.xsternii* (*H.argutifolius*×*H.lividus*)  
銀葉のステルニー。「シルバースター」



スノーホワイト (*H.niger*×*H.orientalis*)  
花は白色で中央部にスポットが入る。葉は緑色でつやがある。



**無茎種の交配種**  
Acaulescent hybrids

色によって分類するのが一般的ですが、更に、色の入り方によりバイカラー(複色)、ピコティー(覆輪)、  
ダークネクタリー(蜜腺が濃い色合い)に、スポットの入り方によりスポット(小斑点状)、ブロッチ(斑状)、  
フラッシュ(中央部に花火状)、アイ(中央部に集中)、ネット(網目状)に、また、線状の脈の入るペイン  
に分類されます。



ホワイト系(スポット)  
えんじ色のスポットが中央部に入る。



ホワイト系(ブロッチ)  
スポットが密集して斑状となる。



ホワイト系  
純白の剣弁花。

**無茎種の交配種**  
Acaulescent hybrids



グリーン系(ピコティー)  
やや薄め色合いで、赤い覆輪が入る。



グリーン系(スポット)  
えんじ色のスポットが均一に入る。



グリーン系(スポット)  
中央部にスポットがまばらに入る。



ホワイト系(ピコティー)  
赤い覆輪が入るピコティー。ダークネクタリー。



イエロー系(スポット)  
えんじ色のスポットが中央部に入る。



イエロー系(ピコティー)  
赤い覆輪が入るピコティー。同色のペインが入る丸弁花。



ピンク系(スポット)  
赤色のスポットが中央部にまばらに入る。



ピンク系  
スポットの無い剣弁花。



ピンク系(ペイン)  
ダークネクタリーで中央部にグリーンの色合いが入る。



イエロー系(ネット)  
薄い黄色地に濃い赤色のネットが広がる。



イエロー系(フラッシュ)  
フラッシュの剣弁花。ダークネクタリー。



イエロー系(アイ)  
中央部にスポットが固まるアイ。



アプリコット系  
中央部に緑色が入る。



アプリコット系  
ピンク色が強めに発色している剣弁花。



アプリコット系  
花弁の縁に切れ目が入っている。



無茎種の交配種  
Acaulescent hybrids



赤系(スポット)  
赤色のスポットが入る。ダークネクター。



赤系(スポット)  
筒状の剣弁花。細かいスポットが入る。



赤系  
整った丸弁花。



灰紫系  
カップ咲きの剣弁花。



灰紫系(スポット)  
スポットが全体に入る丸弁花。



黒系(ネット)  
細かい網目が入る。



黒系  
スポットの無いやや剣弁花。ダークネクター。



黒系  
形の不揃いな剣弁花。ダークネクター。



パイカラー  
内側と裏側の色が異なるリバーシブルタイプ。裏側の色が濃い。

無茎種の交配種  
Acaulescent hybrids



ダブル・ホワイト  
うっすらと花弁の縁に覆輪が入るピコティー。



ダブル・ホワイト  
えんじ色のスポットが入る。



ダブル・ホワイト  
赤い覆輪が入るピコティー。



ダブル・ホワイト  
赤色のスポットが入る。



ダブル・イエロー  
濃いえんじ色のスポットが入る。



ダブル・イエロー  
やや薄目のクリームイエロー。花弁の縁にうっすら覆輪が入る。



ダブル・イエロー  
えんじ色のスポットがまばらに入る。



**無茎種の交配種**  
Acaulescent hybrids



**ダブル・イエロー**  
全体に赤色のスポットが入る、花弁の縁に赤色の覆輪が入るピコティー。



**ダブル・イエロー**  
縁に赤色の覆輪が鮮やかなピコティー。外側の花弁は緑色を帯びる。



**ダブル・ピンク**  
花弁の縁が若干濃い色合い。



**ダブル・パープル**  
ダークカラーのダブル花は貴重。



**セミダブル・ホワイト**  
縁に赤色の覆輪が鮮やかなピコティー。放射線状に緑色が入る。



**セミダブル・パープル**  
グリーンの色合いが入る。

**栽培のポイント**

**年間の管理**

一般の草花は、春頃に生育を開始し、冬季になると活動を休止しますが、ヘレボルスは全く正反対のバイオリズムを持っています。10月になると、本格的に生育を開始します。一年間のヘレボルスの生長と育て方を、図-2の年間管理表(東京付近を基準)に示します。

**栽培場所**

順応性が高く大概の場所で生育します。理想的には10月から翌年の5月までは午前中から日光が十分当たる場所に最低でも3~5時間置きます。そのほかの季節は落葉樹の樹冠の下などの半日陰、あるいは午前中2、3時間だけ日光の当たるまだら日陰の場所が最適です。

**種の扱い**

5月頃に採取した種や購入した種は、湿らせた状態で鉢の中などで管理します。種まきの適期は10月です。1cmくらい覆土して乾かさなないように管理しますが、過湿にならないよう気を付けましょう。1月~3月には発芽しますので、本葉がでてきたらポット上げします。

**株の扱い**

植え替え、株分け等を行う適期は10月です。古葉取りは、花柄が立ち上がりやすくすること、花の見栄えを良くするため、また、放っておくと腐って病気が発生することもあるので11月~12月に実施します。

**水やり**

水やりの基本は、「表土が乾いたらたっぷり与える」ことです。実際には、地域、季節、周辺環境、株の成長度合いなどによって乾き具合が変わってくるので、水やりの頻度や量、与える時間帯を変えながら、過湿にならないよう注意しましょう。

**肥料**

地植えの場合は特別な施肥は必要ないですが、鉢植えの場合は鉢の中の用土からしか栄養を得ることができないので施肥は大事です。肥料の与え方は、「元肥」として緩効性肥料を施し、「置肥」、「液肥」で追肥します。しかし、夏の休眠期には、肥料を与えません。

**病気対策**

ヘレボルスが罹患する病気は、糸状菌(カビ)、細菌(バクテリア)、ウイルスが病原となります。ウイルスを媒介するアブラムシやスリップス対策としてアドマイヤーやオルトラン等を交互に、また、灰色カビ病対策としてダコニールやボトキラーを交互に、2ヶ月に1回程度散布します。もし病変が疑われる株を発見した場合は、隔離して様子を見ながら対策をたててください。



子房が膨らみはじめたりピダス

**年間管理表(図-2)**

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
花の成長		つぼみがふくらむ										
			開花期(2月から3月が中心)									
栽培場所	日光の十分(午前中の3~5時間)当たる所								半日陰からまだら日陰(必要に応じて遮光)			
種の扱い								種の採取	種の保管(とりまきは5月、6月)			
	種まき			発芽			ポット上げ(9cmポット)					
株の扱い	植え付け、植えかえ、株分け(10月が中心、春は暑くなる前に)											
		古葉とり(開花予想株以上の大株が対象)										
		マルチング(必要に応じて)										
水やり	庭植えはほとんど不用。鉢植えは表面が乾いたら午前中にたっぷり与える								過湿に注意し与える		気温が落ち着いた夕方にたっぷり与える	
肥料	元肥	リン成分の多い液肥や置き肥で追肥する										
病気対策	アブラムシやスリップス対策としてオルトランやアドマイヤーを交互に1回/2ヶ月の割合で与える											
	灰色カビ病対策としてダコニールやボトキラーを交互に1回/2ヶ月の割合で与える											